



医療法人財団 明徳会 **総合新川橋病院** (神奈川県川崎市)

診療科目数: 13科

病床数: 208床 (一般)

ホームページ <http://www.shinkawabashi.or.jp>

▼全面改築から13年目だが、ソファやテーブルなどの調度品は使い込むほどに味わいが増し、落ち着いた色遣いの建物全体の雰囲気と相まって居心地の良い空間が生み出されている。▼眼科医院に始まり、1964(昭和39)年に総合病院となった後も眼科診療に力を入れてきた。白内障手術、網膜硝子体手術をはじめとした眼科手術症例数は全国でもトップクラスで、全国各地から患者が訪れる。▼脳神経外科は、脳動脈瘤手術のギネス記録保持者の佐野公俊医師(副院長・脳神経外科顧問)が主となって手術や外来診療を行い、手術実績を伸ばしている。▼低カロリーながら味・見た目ともに満足感の高い食事メニューを追求する栄養科が提供する入院食には定評があり、レシピ本も出版されている。(取材・大倉真登佳)

事務部所属の医事課は、課長1名、副主任2名を含む全33名(常勤18, 非常勤4, 派遣11)。

業務は、次のとおり。

外来係 19名(常勤11, 非常勤4, 派遣4)

- ・①初・再診受付、②予約受付(窓口・電話での予約受付)、③ファイル預かり(診察後、患者票等が入ったファイルを患者から受け取り、氏名の確認や保険

証確認を行う)、④外来算定(オーダー取込み、入力)、⑤外来会計(金銭授受)、診療録の記載内容チェック——を日ごとにローテーション

- ・上記業務の合間に未収金回収、レセプト点検(常勤のみ)など行う

入退院係 6名(常勤5, 派遣1)

- ・入退院受付2名: 受付窓口で、入院案内・書類受付・入院費の徴収など
- ・その他4名: 受付奥で、入院算定・診療録の記載内容確認・未収金回収・レセプト点検(常勤のみ)など

事務所係 2名(常勤)

- ・労災・自賠責請求、医事統計、生保関連業務など

カルテ庫係 6名(派遣)

- ・外来カルテの出入庫。



▲医事課室内

いるが、複数科受診の患者などにはポケベルを渡して、効率的な受診の誘導をしている。

未収金が発生する場合、その日の会計時に患者の支払同意書を得ておく。期日までに支払が行われない場合には電話で督促し、その後、文書での督促に切り替える。

2014年4月の診療報酬改定を受け、医師、看護師を含めた全職員を対象とした院内学習会を開催した。その際、発表者となった医事課は、一丸となって取り組んだ。診療区分ごとにチームを作り、改定のポイントをまとめて発表。「発表のための準備が職員の診療報酬への理解を深め、業務上でも役立った。今後も、このやり方を継続していきたい」(石塚ゆかり医事課長)という。



▲2階から1階受付を臨む



▲1階受付

紙カルテとオーダリングシステムで運用している。カルテは、直近2年分は院内、それより前の2年分は離れにあり、さらに古いものは業者に保管委託している。電子カルテへの移行を検討中。

外来・入院ともにレセプト点検は、すべて常勤職員で行う。外来については、仮レセプトを月3回出力し、診療科ごとに割り当てられた担当者が点検したあと、医師に確認の依頼をしている。最終的には全科まとめたレセプトを出力し、全員で分担して再点検する。

予約制のため待ち時間は短縮されて

趣味は、食べ歩き。以前、自院に入院した際に食べたロールキャベツが美味しくて、びっくりしました。

職員インタビュー

池田哲也さん 9年目 入院副主任
レセプトの再審査請求の結果、“復活”したときには、やりがいを感じます。
医事課では、最近、やり方を変えました。以前は、先生方に「お願いします」と査定表を渡すだけでしたが、一つひとつの査定について「再審査請求をするか否か」



の確認欄を設けて渡すようにしたところ、「はい」に○を付けてレセプトに一言書いてくださる先生が多くなりました。

実際に行った診療行為を請求するわけですから、査定された場合、病院も患者さんも困ります。そうしたことがないよう、気を引き締めていきたいと思えます。

☆取材先募集☆

「医事課にお邪魔」にご登場いただける医療機関を募集しております。連絡先は下記へお願いします。

電話 03-3512-0253 (佐伯)
Eメール it@gigakutushin.co.jp

【総合新川橋病院 DATA】

- ◆開設年月日：1930（昭和5）年4月
- ◆病床稼働率：約80%
- ◆平均在院日数：約9日
- ◆外来／患者数：約770人／日
レセプト数：約10,000件／月
- ◆入院／患者数：約4,580人／月
レセプト数：約700件／月



▲病院外観

また、今改定では、「短期滞在手術の対象手術名に、当院で実施数の多い白内障手術が加わり、その影響が一番大きい。期間内に実施した場合は、片眼でも両眼でも診療報酬上は同じ点数になることを周知させた」（石塚課長）。

毎月第4木曜日の業務終了後、常勤医事職員が集まり、会議を行っている。業務に関わる重要事項の伝達をはじめ、職員から業務改善提案が出されたり、診療報酬の基礎的な勉強会を行うなど、情報の交換・共有の場となっている。



栄養科の料理教室

栄養科では、毎月「500kcal 料理教室」（参加費1000円）を開催しており、年2回「500kcal フルコース食事会」（参加費1500円）も行っている。「500kcal 献立ブック」（主婦と生活社）（写真）は、このレシピをまとめたものだ。



▲ライブラリー

栄養科が提供する入院食は、退院時アンケートでも、高い評価を受けている。

救急隊との勉強会

同院へのスムーズな救急患者の搬送に協力していただくため、「川崎消防署・救急隊との勉強会」を開催している。4月15日のテーマは、「心臓とモニター心電図について」。心臓血管センターの医師が基本的な心臓の仕組みから、モニター心電図による状態の見分け方などの話をした。最後の質疑応答では活発な議論が交わされたという。

国際レベルのトレーニング

循環器科は「新川橋パートナーズ心臓血管センター」との呼称で、所属する医師とスタッフが「アーカンソー・ハートホスピタル」（アメリカにある世界屈指の心臓血管専門の病院）の指導者のもとで国際レベルのトレーニングを受け、心臓・血管疾患の最新治療を行っている。



新川橋病院の歌

創立40周年の節目に、歌詞を職員に募集して病院歌「新川橋病院の歌」（写真）を作った。前理事長と同級生であった縁で、有名な作曲家黛敏郎氏が作曲を手がけている。年始めに職員を対象に行われる賀詞交換会や、4月の新人研修の際などに歌われている。

ライブラリー

本館1階ロビーには、患者用図書館がある（写真）。患者の要望に応えたもので、書棚には、医学専門書や一般



▲500kcal 献立ブック

「多摩の清流や 富士の嶺も 暗く煙りに おおわれ 百万市民の 健康と 明るい社会の 建設に 大きな理想を かけつけ 進まん!!」

昔々の 新川橋病院

▲新川橋病院の歌。

誌、雑誌、小説、児童書や絵本、趣味の本——など様々な本が置いてあり、閲覧用の机やソファもたくさん用意されている。疾患に関するビデオ上映もしている。受付に職員1名がおり、本の必要箇所のコピーや同院の関連書籍の販売などを行っている。待ち時間の有効活用にも一役買っている。

新川橋公開講座

1階ライブラリースペースを利用して、週2～3回のペースで公開講座を行っている。医師による疾患や治療方法に関する講義のほか、栄養士による「あなたに合った食べ方のコツ」、理学療法士による「膝の痛みを運動で治そう！」など、親しみやすいテーマを意識し、患者から好評だ。また、毎週木曜日は、薄井眼科部長による「眼の健康相談」を実施している。白内障や緑内障などの眼科疾患の解説も行うが、患者とのコミュニケーションを重視し、参加者の満足度も高いという。

レストラン Lagoon

8階には、職員や患者だけでなく、一般客からも美味しいと評判のレストランがある。毎年恒例の賀詞交換会もここで行われる。

ジャニーズ山P(山下智久さん)の大ファンです。年2回はコンサートに出かけてリフレッシュ!

小島清美さん 14年目 外来係

外来係は、受付、会計入力、ファイル受け取り、カルテチェック——を日替わりでローテーションし、その合間に、レセプト点検などを行います。

特にファイル受け取り業務では、患者さんと間近で触れ合うことができます。



すべての患者さんに確認のため、氏名を名乗っていただくのですが、小児患者さんが元気よく名前を覚えてくれる様子などは可愛らしく、思わず頬が緩んでしまいます。一方、会計入力の際は、金額に誤りがあってはいけませんので、終始緊張感をもって仕事に臨みます。

